

科目名	近代日本社会変動論 特殊研究	担当者	コミネ 小峰 カズオ 和夫	期間	通年	単位数	4
-----	-------------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>①現代日本の社会変動と社会構造について、巨視的な立場に立って歴史的变化のなかで総括的にとらえる視点を養う。</p> <p>②社会のあり方をめぐる日本人の間での意見や志向の違い、対立の構図、あるいは政策などについて歴史的に振り返り、現在および今後、どのような日本にしていくべきかの指針をさぐる。</p> <p>③長期の経済低迷のもとでの雇用不安、所得低迷、さらには急速な少子高齢化や総人口減少などによって予測される日本の社会変動に関する認識を深める。</p> <p>④日本の社会変動の進展過程を考究するなかで、自らの置かれた歴史的位置をさぐっていく。</p>		
到達目標	<p>①現代日本の社会構造、社会状況の変化の過程を、さまざまな問題点、論点を踏まえながら、体系的かつ歴史的にとらえる眼を養う。</p> <p>②いまや不可避となった国民総人口の大幅な減少という現実が、これからの日本社会にいかなる変化をもたらすかを展望する視野を養う。</p> <p>③社会問題を総括的、歴史的にとらえる方法を学ぶ。激しい社会変動の時代を生きるのに有効な思考の枠組みと視野を身につける。</p>		
学修方法	<p>①指定の教材をしっかりと読む。教材に真摯に向き合うことを通じて、当該テーマにかかわる基礎的な知識や情報、分析方法などを学びとるようにする。</p> <p>②レポートの課題を的確につかみ、見当外れのレポートにならないようにする。教材や課題からかけ離れた自己主張ばかりの論述は避ける。</p> <p>③レポートに鋭い切り口を持たせるため、テーマと自分自身との関連性について、貴重な自己体験をもとに内省的に考察する。</p> <p>④中身のより充実したレポートを作成するため、できるだけ教材以外の文献も参考にする。インターネットを利用しての情報収集も心がけるとよい。</p>		
スケジュール	<p>①履修登録完了後、担当講師からレポート作成についての簡単な指示。</p> <p>②草稿の提出：前期は8月前半までに、後期は12月前半までに、それぞれ最低1回は草稿を提出し、担当講師の添削を受け、草稿の手直し改善をはかる。</p> <p>③前期後期それぞれ所定の期限までに正式の原稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材の理解度、レポートの構成、文章力と語彙力、参考文献等の利用具合、全体の論旨の明快度等をみる。
	平常評価	20%	草稿の提出状況、添削結果への対応状況、担当講師とのコミュニケーション等を通じての履修態度、熱心度をみる。
履修者への要望	<p>博士前期課程入学以来の学習の成果を生かして、形式および内容とも、できれば「小論文」に近いようなレポートに仕上げることが望ましい。前期または後期、いずれか一つのレポートだけでもよいので、そのような意欲的な目標を立ててほしい。客観性を備えつつ、明確な主張のあるレポートを作成していただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 高原基彰 教材名： 『現代日本の転機：「自由」と「安定」のジレンマ』（NHK 出版，2009 年） ISBN:978-4-14-091140-2 1,070 円+税
	本書は，1970 年代から現在に至る日本の社会変動の過程を論点整理的に描いたものである。キーワードは「安定」と「自由」である。この半世紀近く日本社会は，一種の身分制的秩序を備えた「安定」への志向と，それを批判し既成秩序の解体を望む「自由」への志向との間を揺れ動いてきた。この切り口から現代史を丁寧を追っている。主な内容は以下のようである。 ○左右の反近代主義のねじれ ○「七三年の転機」とは何か ○「超安定社会」の起源 ○多幸福感の背後で進んだ変化 ○日本型新自由主義の展開 ○閉塞感の先へ
参考図書	橋本健二『「格差」の戦後史：増補版』（河出書房新社，2013 年）ISBN:978-4-309-624466-2 C0336 1,500 円+税 佐藤俊樹『不平等社会日本』（岩波書店，2000 年）ISBN:978-4-12-101537-2 660 円+税
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・教材は全体を必ず読み通すこと。 ・草稿を提出してコメントを受けたいうえで書き直したレポートを正式に提出すること。
レポート課題 1	著者が論じている「七三年の転機」とはどういうものか。その要点をまとめ，何かコメントすべきところがあれば自由に述べなさい。 留意点 ：1970 年代に始まる現代世界の変質を理解するようにしてほしい。
レポート課題 2	教材の第二章～第四章のうちから一つを選び，その内容を要約して述べたいうえで，自分なりの批評を展開しなさい。 留意点 ：論点をよく押さえてレポートしてほしい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 平川克美 教材名： 『移行期的混乱：経済成長神話の終わり』（筑摩書房，2013 年） ISBN:978-4-480-43025-0 760 円+税
	本書は，歴史上かつて経験したことのない人口減少時代の到来という現実を正面に据えて、第二次世界大戦の敗北から今日に至るまでの日本人の経済モラル、労働勤労観、生活観の移り変わりを追ったものである。総人口の減少という不可避的な現実を立論の前提に置いて、日本の社会経済の現状と将来を大胆に考察した本書は，現代日本の社会変動を考える上で時宜にかなった一書である。以下はその目次である。 第 1 章 百年単位の時間軸で時代の転換期を読み解く 第 2 章 「義」のために働いた日本人 第 3 章 消費の時代の幕開け 第 4 章 金銭一元的な価値観への収斂 第 5 章 移行期的混乱 終章 未来を語るべきの方法について 付録 「右肩下がり時代」の労働哲学
参考図書	森岡孝二『雇用身分社会』（岩波書店，2015 年）ISBN:978-4-00-43568-1 800 円+税 小倉一哉『過働社会ニッポン』（日本経済新聞出版社，2011 年）ISBN:978-4-532-19594-6 800 円+税 筒井淳也『仕事と家族』（岩波書店，2015 年）ISBN-978-4-12-102322-3 780 円+税
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・教材は全体を必ず読み通すこと。 ・草稿を提出してコメントを受けたいうえで書き直したレポートを正式に提出すること。
レポート課題 1	教材では「戦後日本人の労働意識の変化」をどのようにとらえているか。そのあらましをまとめ，最後にそれについて論評しなさい。 留意点 ：自らの経験や見聞を生かしたレポートにしてほしい。
レポート課題 2	教材の著者の言う「日本社会の移行期的混乱」とはどのようなものか。そのあらましましをまとめ，最後にそれについて論評しなさい。 留意点 ：日本社会のトータルな変化を展望してほしい。